

～ 自分のアンテナを立てていく ～

絵の具と画用紙を置いて、何をするとともに見守りました。

子ども達は最初様子を見ていますが、自分のやりたい事で動き始めます。絵の具を流し、床の色水を触り、容器の水滴を見つめています。画用紙に塗り、混ぜ、色の変化に気付きます。「へびだよ」と、赤い線を、ひたすら描き続ける人もいます。絵の具を手の平に塗り、手で混ぜてうれしそうです。容器に絵の具を集め、移しかえる事を繰り返す人もいます。

途中から澱粉のりを出すと、触るのをためらっていますが手に塗りたい、もっとちょうだい、水垂らして、と言ってくる人もいます。

子ども達は最初「次はどうするの?」と聞いていました。「やりたい事やってもいいんだよ」と見守り、応答を求めてきた時に「〇〇だね」と受け止めているうちに、自分のやりたい事、興味ある物に集中していきました。大人の指示を待つのではなく、自分で遊びを見つけていきます。

自分のアンテナが立ってきているようです。それは自分の個性の源、感性のアンテナです。

自分のやりたい事を表現できるように、「どうしたい?」と問いかけ「〇〇していい?」と意思を確認しながら、表現したことを受け止めていく。自分で考えるスイッチを入れ、感性を育むことに繋がるはずです。

それぞれのアンテナで遊んだ痕跡は、一人ひとりの違った個性が、生き生きと表現されていました。

